

# 郷土資料館だより

Vol.29. No.2

2007.1.1

## 推定平安鎌倉古道

ふるさと講座「平安鎌倉の道を歩こう」(9月29日)で、推定平安鎌倉古道を訪ねましたが、その様子を紹介します。

**平安鎌倉古道入口**  
鎌倉古道入口

**推定平安鎌倉古道と石碑**

**扇平分岐・説明板**  
元山中 箱根

**諏訪神社**

**山神社**

**元山中関所跡**  
鎌倉時代から戦国時代まで関所が設けられていたといわれている。

**小沢分岐**

**三嶋大社**

裾野駅  
芦ノ湖高原別荘地  
海ノ平  
箱根峠  
古道入口  
箱根旧街道  
山中新田一里塚  
扇平  
箱根の里  
宗閑寺  
山中城跡  
諏訪神社  
山神社  
元山中関所跡  
小沢の里  
子供の森  
笹原一里塚  
龍沢寺  
清掃センター  
沢地小  
三島聖苑  
小沢分岐  
山田中  
山田小  
市民体育館  
三島駅  
三嶋大社  
願成寺  
三島市役所  
錦田一里塚  
社保三島病院

## 企画展「発掘された日本列島2006地域展—東駿河・伊豆の古墳と横穴墓—」報告

- 開催期間 平成18年8月15日(火)～10月9日(月)合計49日間
- 入館者数 8,260人

今回の企画展は、佐野美術館で行われた「発掘された日本列島2006中核展—新発見考古速報展—」に併せ、伊豆と東駿河で発見された古墳と横穴墓を中心に紹介しました。また、「ふるさと歴史文学コーナー」(本町プラザ)では「出土遺物が語る山中城攻防戦」と題し、戦国時代最大の攻城戦といわれる山中城の戦いを遺物や写真パネルで紹介しました。

関連事業として、ギャラリートークや遺跡見学会、「東駿河・伊豆地方の前期古墳の問題点」(明治大学名誉教授 大塚初重氏)「山中城攻防戦と山内一豊」(三嶋大社宝物館学芸員 奥村徹也氏)「古墳の終末と火葬墓の出現」(静岡県埋蔵文化財調査研究所調査研究員 井鍋誉之氏)などの講演会、勾玉作り教室などが催され、多くの人で賑わいました。



▲ギャラリートークの様子



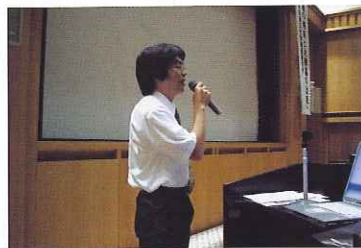
▲勾玉作り教室



▲古墳見学会 (向山16号墳)



▲「東駿河・伊豆地方の前期古墳の問題点」



▲「古墳の終末と火葬墓の出現」

## ふるさと講座報告「平安鎌倉の道を歩く」報告

- 日時 9月29日(金)9:00～15:30 参加者25人
- 講師 辻 真人氏 (三島市文化振興課学芸員)

推定平安鎌倉古道を芦ノ湖高原別荘入り口から4時間半かけて三嶋大社まで歩きました。教育委員会が建てた石塔には必ず「推定」の文字が刻まれています。なぜ推定の域からでないのか、なぜ平安・鎌倉時代の道だと推定できるのか、これらの点について講師から発掘調査に基づいた説明がありました。推定平安鎌倉古道は、国道とは違うため人々の生活のしやすいように道ができてしまいます。現在も雨や人の歩き方によって道が日々変化しており、実際歩いてみると昭和50年代に建てられた石塔からだいぶ外れている箇所がありました。また途中三嶋暦師の館へ寄り、ご当主の河合龍明さんから建物の歴史について伺いました。今回は赤土に足をとられ滑ったり転んだりする人が一人もなく、参加者全員が三嶋大社まで無事たどり着くことができました。見所となるポイントは決して多くありませんが、いにしへの道の雰囲気味わうにはお勧めです。



▲講座風景



▲講座風景

## ふるさと講座「江戸時代の旅」報告

- 第1回 11月25日(土) 13:30～15:00 出席者35人  
第2回 12月 9日(土) 13:30～15:00 出席者32人
- 講師 関 守敏氏 (郷土史家)

ふるさと歴史文学コーナー（本町プラザ）「江戸時代の旅」の展示にあわせ、郷土史家の関守敏さんに、「江戸時代の旅」と題して、収集したコレクションの紹介を含めお話していただきました。関さんは、学生の頃から三島の歴史や文化に深く興味を持ち、三島ゆかりのものを収集しています。「旅」は脳の活性化に繋がると冒頭にお話になり、ご本人も大の旅行好きだそうです。三島は昔から東海道を旅する旅人と密接な関係にあったといえます。旅人が実際使用していた枕や、矢立（筆と墨壺を組み合わせた携帯用の筆記用具）などを紹介していただきました。枕もただの木の箱から、鯨のひげでできたものなど、使用する人によって材料や細工の違いが分かる豊富なコレクションでした。

また、旅や観光、みやげの語源の説明や、英語のtravelもtroubleからきていることなど、ときおり笑いが飛び出す和やかな雰囲気での1時間半でした。第2回目は、関所や、旅の日記「道中記」を中心とした講義でした。



▲講座風景



▲講座風景

## ふるさと歴史文学コーナー「江戸時代の旅」開催中

- 開催期間 平成18年10月19日(木)～平成19年1月下旬
- 会場 ふるさと歴史文学コーナー（本町プラザ4階）

1601（慶長6）年、江戸幕府が東海道をはじめ五街道の宿駅を設置し、一里塚や松並木の整備を行うと、三島は箱根越えの拠点の宿場町として栄え、東海道を往来する多くの旅人で賑いました。

古来「旅」は、官人の公的な旅、防人や税を納める旅、あるいは信仰の修行としての旅が主でしたが、江戸時代になると農業の生産力の向上と貨幣経済の進展で、民衆にも時間と消費に余裕が生まれ、旅は大衆のレジャーとして楽しめるようになります。それでも簡単に旅に出られるわけではありませんでしたが、お伊勢参りや社寺参詣を名目に出かけ、日常からの解放感を満たしました。

今回の企画展では、郷土史家の関守敏氏にご協力いただき、「江戸時代の旅」をテーマに旅の道具や道中記・絵図などから当時の旅の様子を紹介します。



▲旅の格好



▲矢立など



▲弁当箱や旅枕

## 〈特集〉企画展「三島ゆかりの芸術家たち」

●会期:平成18年11月3日(金)～平成19年1月28日(日)

三島市は昭和16年の市制施行から65年を迎えました。また、三島市郷土資料館は昭和46年10月5日の開館以来、三島の文化に関わる企画展を毎年開催してきましたが、昨年ちょうど35年を迎えました。今回の企画展は三島市の所蔵する芸術作品の中から、郷土を代表する7人の芸術家とその作品を紹介します。また特別展示として、昭和35年の三島市役所新庁舎落成記念に寄贈された絵画を併せて展示紹介します。

◆<sup>くりはらちゆうじ</sup>栗原忠二(1886～1936)

栗原忠二は、久保町(現・三島市中央町)の旧家に生まれました。葦山中学(現・県立葦山高校)を卒業。ターナーの作風に傾倒し、東京美術学校(現・東京芸術大学)在学中には「月島の月」が第12回白馬会展で東京朝日新聞の好評を得ています。大学卒業後、イギリスに留学し、帰国後は東京荻窪で制作活動に没頭し、多くの展覧会に作品を出品しています。



ヴェニスのごンドラ



英国風景

◆<sup>しもだしゆんどう</sup>下田舜堂(1899～1989)

下田舜堂は、神奈川県で生まれました。沼津中学(現・県立沼津東高校)から東京美術学校日本画本科に入学、第10回帝国美術院展(帝展)に入選します。終戦後は三島を中心に美術界での活動を続け、第1回静岡県美術展に出品し、最高位の知事賞を受賞。美術展の審査員も務め、佐野美術館の初代館長にも迎えられています。



小浜池



朝焼けの富士

◆<sup>たかなししょうせい</sup>高梨勝静(1904～1987)

高梨勝静は田方郡田中村(現・伊豆の国市)に生まれました。京都絵画専門学校(現・京都芸術大学)を卒業後、台湾に渡り美術展へ出品。入選作品「竹林田家」は台湾総督府に買い上げられ、台湾美術奉公会幹事長も務めます。帰国後は、三島第一高校(現・県立三島北高校)に勤めました。現在の校章は高梨氏のデザインしたものです。



風景



春

「摩周湖」は静岡県芸術祭賞を受賞。また三島市美術展の審査員も務めました。

◆<sup>ほそい はんせい</sup>細井繁誠(1905～1977)

細井繁誠は、三ツ谷(現・三島市三ツ谷)に生まれました。葦山中学に入学しますが、先生の勧めで中泉農学校(現・県立磐田農業高校)に転校し学びます。卒業後、洋画家・和田三造に弟子入りし、第8回帝国美術院展(帝展)に初入選、以降入選を重ね無鑑査となります。杉本英一らと絵画グループ「十日会」を設立、「新協美術会」の創立に携わり、三島美術展の審査員も務めます。「暮色」で文部大臣奨励賞を受賞、「月と芋畑」など新作を描き続けました。



海辺



裸婦

◆<sup>すぎもとえいいち</sup>杉本英一(1910～1982)

杉本英一は、山田(現・三島市川原ヶ谷)の農家に生まれました。柏木俊一に師事し、「真鶴港」が第6回国画会展(国展)に初入選。その後、度々国展で入選するようになります。日中戦争のため召集を受けますが、除隊後は上海で絵画制作を復活。帰国後は、本格的に画業に取り組み、三島市美術展の審査員にも推され、活躍しました。



風景



絵画教室

◆<sup>せりざわしんご</sup>芹沢晋吾(1928~1978)

芹沢晋吾は、茅町(現・三島市加屋町)に生まれました。三島商業高校(現・県立三島南高校)の美術部に入るなり画才が注目され、自由美術協会展に入選、三島市の第1回美術展への出品や、二科展入選など数々の展覧会で入選を重ね、汎太平洋国際青年画家展に日本代表で入選を果たします。スペイン・ポルトガルへ外遊し、個展も数多く開催します。この間、三島市美術展の審査員も務めています。

◆<sup>のぐちさん しろう</sup>野口三四郎(1901~1937)

野口三四郎は、大中島(現・三島市本町)に生まれました。葦山中学校へ入学、東京三越デパートの早撮り写真の機械技師となり、京城(現・韓国ソウル)で開催された「朝鮮博覧会」へ写真技師として派遣されます。帰国後は人形作家・鹿兒島寿蔵、堀柳女らとの出会いにより、人形作家として活動するようになります。三島の水辺をモチーフにした「水辺興談」は創作人形界の最高賞「人形芸術院賞」を受賞しました。



スペイン風景



屠殺者

水辺興談  
(個人蔵)朝鮮旅行スケッチ  
(個人蔵)

## 「月島の月」のなぞ ～月はどこか～

夕日が今まさに海に沈もうとしています。

現在郷土資料館に収蔵されている「月島の月」は、長い間、三島市立南小学校の講堂に掲げられ、生徒たちの絵画の手本とされていました。

この絵は、栗原忠二が東京芸術大学在学中のときの作品です。第12回白馬会展に出品されたもので、当時の新聞社にもとりあげられています。東京朝日新聞では、「崇美を捉えて描いたもの」「チャアミングである」と高評され、一方報知新聞では「未だ習熟の足りない青年」は「写生を怠らないこと」と辛口の評価をされています。



▲月島の月

ところで、この絵のどこに月があるのでしょうか。遠くからでは全くわかりませんが、夕日の左上に薄っすらと満月が描かれています。題名を「月」とするからには月が絵の中心になりそうなものですが、真っ先に目に飛び込んでくるのは、真っ赤な夕日です。

当時の白馬会出品目録には、この「月島の月」は、「月島の夕」として出品されていました。「月島の月」という題名は、当初、栗原がつけたものではありませんでした。何を思って栗原はこの絵を描いたのでしょうか。いつしか「月島の夕」が「月島風景」となり、「月島の月」へと変遷していったようです。

科学的には、夕日と満月が同じ方角に見えることはありません。満月が見えるのは、太陽と180度離れている時で、太陽は西に、月は東に見えるはずです。

なぞの「月」はいつ現れたのでしょうか。やはり満月の夜には、不思議なことが起きるものなのかもしれません。

## 《次回企画展》

## ●「三島と女性たち」 3/18(日)~5/27(日)

女性の歴史を振り返るとともに、三島に生きる女性たちの生活や暮らしを中心に紹介します。

# 郷土資料館運営協議会委員研修視察報告



- 平成18年10月6日(木)
- 視察先:掛川市(掛川城公園、資生堂アートハウスほか)

NHK大河ドラマ「功名が辻」の舞台にもなった掛川市を訪れ、掛川城を中心とした街並の様子や資生堂アートギャラリー、資生堂企業資料館を見学しました。

掛川城下は、山内一豊が城主時代に城の修復や城下町の区画の構築・整備が行われ、天守閣も建立されました。現在の掛川城は、1994(平成6年)4月、高知城を参考に木造天守閣として復元されたものです。公園内の二の丸美術館は、1998(平成10)年4月オープン。文化振興のため寄贈された美術工芸品や近代日本画のコレクションをはじめ、優れた美術品や歴史的な価値のある工芸品などが幅広く収蔵・展示されています。

資生堂アートハウスは、1978(昭和53)年に開設しました。その後、2002(平成14)年のリニューアルを機に、近現代のすぐれた美術品を収集・保存しています。また資生堂企業資料館は、創業120周年を迎えた1992(平成4)年に開設されました。資生堂の商品パッケージ、ポスター、新聞・雑誌など様々な資料を収集・保存し、館内には収蔵品の一部が展示公開されています。



▲掛川市二の丸美術館視察の様子

## 生涯学習功労者表彰(長田和子さん)



古文書読習会や三島宿研究会で長く活躍されている長田和子さんが平成18年度三島市生涯学習功労者として表彰されました。長年にわたる古文書解読研究、古文書解読奉仕及び後継者育成の尽力に対し表彰されたものです。

11月5日(日)市民文化会館で開催された『三島市生涯学習フェスティバル』にて表彰式がとり行われました。

## 寄贈資料紹介



平成18年8月から11月に、次の方々からご寄贈のご協力をいただきました。ありがとうございました。

- |      |     |         |     |
|------|-----|---------|-----|
| 伊達俊子 | 三島市 | 古書籍     | 20点 |
| 政木永子 | 三島市 | 三島北高校校章 | 1点  |
|      |     | 学年章     | 3点  |
|      |     | 生徒手帳    | 2点  |



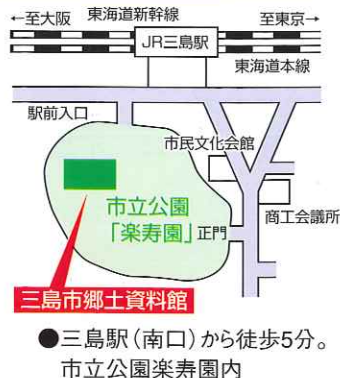
▲古書籍



▲三島北高校校章他

### 利用案内

- 休館日  
毎週月曜日  
(祝日の時は翌日)  
12月27日~1月2日
- 開館時間  
午前9時~午後5時  
(4/1~10/31)  
午前9時~午後4時30分  
(11/1~3/31)
- 入館無料  
(ただし、楽寿園入園の際に有料)



### 郷土資料館だより vol.29 No.2(第86号)

発行日 平成19年(2007)1月1日  
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館  
〒411-0036  
三島市一番町19-3 楽寿園内  
TEL 055-971-8228  
FAX 055-981-3730

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp  
URL : http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/  
発行 三島市教育委員会